

令和元年度第1回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2階大会議室

R1.10.4 18:30~20:00

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 高知市保健所長挨拶

3 議事

①口腔保健支援センター5年間の取組について

事務局より説明

質問はなし

【宮川会長】

医歯薬連携推進事業は高知市より委託を受けて高知市歯科医師会が取り組んでいる事業である。委員である医師会の高崎委員，薬剤師会の寺尾委員にもご協力をいただき取り組んでいる。この5年間の取組について歯科医師会の田岡委員より報告をお願いしたい。

【田岡委員】

平成27年度から歯周病と生活習慣病の関係について周知度を増加していくための事業に取り組んできた。平成27年には，市民向けに医歯薬が連携してみなさんの健康を守りますといった内容のポスター作成や，医歯薬関係者に対し，歯周病と生活習慣病の関わりについて，通院されている患者さんに歯科受診を勧めたことがあるか等の内容のアンケート調査を行った。

この5年間で講演会・研修会を4回行ってきたが，うち1回は昨日，神奈川歯科大学の青山先生をお招きして，歯周病と全身疾患はどれくらい関係があるかについて講演をしていただいた。昨年は，保険に新たに導入された診療情報連携共有料という医科と歯科の情報交換のツールについての解説文やフォーマットを作成した。

市民向けには，先ほどお話したポスター以外に，歯周病の危険性についてのリーフレットを作成した。

27年度と29年度に医歯薬の関係者に同じアンケートを取り，周知度等の変化を確認したら，周知度については，資料にもあるように微増していた。資料には載っていないが，特定健診受診者に歯科受診をすすめたことがあるかの問いでは，27年度は27%，29年

度は 21%であった。今後の医歯薬連携では、連携をとっていきながら環境づくりを進め、広く市民にも啓蒙できる取組を行っていきたいと考えている。

【宮川会長】

同じくこの事業にご協力いただいている医師会の高崎委員、感想や今後の医歯薬連携事業についてのご意見をお願いしたい。

【高崎委員】

歯周病と内科疾患の関連については 10 年前にはほとんど周知されていなかったが、前回から糖尿病学会の糖尿病治療のガイドラインには歯周病との関係が記載されている。医師会の内科医の中では、歯周病との関連がだいぶ周知されてきている。

参加人数も徐々に増えてきているので、今後もそういった情報を周知できる機会を継続していければと思う。

【宮川会長】

今年度の研修会参加者は 130 名弱だった。昨年度は 70 名弱だったので、研修会参加者が増えてきており歯周病と生活習慣病の関連について周知が広がってきているため、今後も続けていければと思っている。リーフレット、ポスターも作成しているので、委員のみなさまにも広く活用していただければと思う。

②令和元年度口腔保健支援センターの取組について
事務局より説明

【宮川会長】

口腔保健支援センターの 5 年間の取組と今年度の取組について事務局より報告があったが、フッ化物洗口実施については、保育所、幼稚園が 30 園、小学校では 7 校の実施となっている。フッ化物洗口についての意向調査を実施し、取り組みたいと回答している園や学校、また研修会を希望されているところもあり、今年度以降も実施率の増加が期待できるのではないかと。また 12 歳児のむし歯も減少してきており、フッ化物洗口実施の成果も出てきている。今後も園から小学校と継続した取組が増えていければと思う。また、歯肉炎予防の取組につきましては、小中学校での高知学園短期大学の指導が定着してきており、今年度は、今までの校数より多い小学校 33 校、中学校 11 校、今年度は特別支援学校でも実施することになっている。中学生の歯肉に所見があるものの割合もまだ 30%以上はいるが、減少してきている。

成人に対する歯周病予防保健指導の実施については、生活習慣病予防と連携した取組が広がってきている。医歯薬連携推進事業も今年で 5 年目になるが、関係者間の連携も

少しずつ深まってきており、市民の方々への普及啓発にも広まっていければと思っています。

それぞれの立場でご意見をいただきたいが、今年度、新たに委員になられた森本委員，早速ですが、フッ化物洗口についての保育園の状況と、小学校との連携についてご意見をお願いしたい。

【森本委員】

フッ化物洗口の取組について、校区の小学校と検討することがあるかどうか、15園ほどの園に確認すると、一宮小学校区は園と学校の連携が取れているが、他の校区ではなかった。

園長会では、保育園は東西南北の4ブロックに分かれているが、東ブロックに属する一宮小学校区の保育園が一番フッ化物洗口を実施している園も多く連携も取れている園が多いと聞いた。

北ブロックでは、1園が小学校の方からフッ化物洗口についてではないが口腔に関する話を歯科医師の先生から聞く機会について、小学校より話があり、連携があるとのことだった。

自分の園は東ブロックだが、近隣の三里、種崎はフッ化物洗口を実施しており、自分の園である十津は、11月から実施する予定である。今後は小学校にもフッ化物洗口についての話ができていければと考えている。地区の園長会、校長会の方に働きかけていきたいと思っている。

今後フッ化物洗口の取組が広がるように、健康増進課等からも一宮小学校の取組や成果を園長会等で周知し、フッ化物洗口の体験もしていくことが必要だと思う。

歯科医師会からも口腔機能の研修会の案内もいただき参加しているが、園長会の場でもそういった研修をしていただくと「口育て」につながるのではないかと思う。

【宮川会長】

高知市歯科医師会から園長会等に周知に行かせてもらうのは可能か。

【森本委員】

園長会は年に3回やっているが、その中で研修会等も実施しているので、歯科医師会の先生方に来ていただき園長が話を聞く機会を持てたらありがたいと思う。今年度来ていただけるのならば、3月くらいにお願いできたらと思う。

【田岡委員】

昨年、医師会主催の学校医と学校長と養護教諭の懇談会に行き、周知をしてきたが、園長会での研修会では時間はどれくらい取れるものか。フッ化物洗口の体験等も実施で

きるものか。

【森本委員】

時間は、1時間くらい取れる。園長も世代交代で若い園長先生も増えている。フッ化物洗口を自分が体験してみて、どんなものか初めて分かるので、体験等もあつたらいいと思う。実際フッ化物洗口を実施している園の話等も聞くことでわかりやすいと思う。自分も東ブロックの園から、具体的な取組について聞くことで、やってみようと思いき今準備をすすめているところである。

【宮川委員】

研修の日程等は事前に言っていただくと、対応させていただくのでお願いしたい。

続いて、公立保育園もこの5年間で6園まで増えているが、保育幼稚園課の状況について教えてほしい。

【保育幼稚園課】

公立保育園は26園あるが、今年度新たに1園開始し、現在7園がフッ化物洗口を実施している。他の園の希望も聞いているため、順次増やしていきたいと考えている。

口腔保健検討会に参加している中で、子どもの歯の健康が、体の健康にもつながり、将来的には医療費の抑制にもつながるなど、フッ化物洗口の必要性については認識している。毎月1回公立保育園の園長会があるため、その会の中でもフッ化物洗口の効果等についての話をしている。現場では新しいことに取組むことには抵抗があつたりもするが、少しずつ手も上がってきている。歯科医師会の方からもぜひ周知していただく場を設けることができるのでご協力お願いしたい。

【宮川会長】

民間、公立の園長会ともにお声かけいただいているので、歯科医師会の方でまた周知していく方向で調整していきたい。

【宮川会長】

続いて、小学校の状況についてお願いしたい。

【吉井委員】

本校は、フッ化物洗口を平成29年度の途中から開始した。23学級あり、全学級同じ日に実施するのは難しいため、曜日を変えて実施している。当初はすでにフッ化物洗口を実施していた一宮小学校の取組について教えてもらいながら開始をした。校区の保育園、幼稚園とはいろいろな連携は取っているが、フッ化物洗口に特化した意見交換はしてい

ない。また、一宮中学校とは、フッ化物洗口についての意見交換はしていないが、小中連携事業を行っているので、歯科健診の結果等については養護教諭部会で共有し、今後の小中学校での取組について検討は行っている。

【宮川会長】

P T A 連合会についてお聞きしたいが、連合会の方で、フッ化物洗口等の学習会等の取組はできるのか。

【前田委員】

P T A 連合会では、年に4回常任委員会というものを行っている。その中で、説明等していただけたら啓発につながると思う。保護者は学校でフッ化物洗口の取組をしていることもほとんど知らないと思うので、ぜひ説明していただけたらと思う。

【宮川会長】

フッ化物洗口については徐々に広がってきているところである。先ほども話にでていたが、歯科医師会の方が園長会等に出向かせてもらって周知していくことで少しずつ園での取組も広がっていくのではないかと思っている。周知ができるお構いなしの会等あるならば、歯科医師会の事務局にお知らせしていただければ対応していきたいと思うので、ご協力お願いしたい。

【宮川会長】

続いて、小中学校での歯肉炎予防についてご意見を伺いたい。

まず、実施している学園短大の立場で大野委員にお伺いしたいが、本日欠席で事務局に事前に意見をいただいているので、事務局の方から報告お願いしたい。

【健康増進課】

大野委員からの意見で、まず歯肉炎予防の取組について、小学校は、歯肉の観察にポイントを絞った指導について、昨年染出しをしなくなったことから、歯肉の観察と歯みがきに時間をかけることができよかったと思う。

「あいうべ体操」については、学生は効果については説明できていると思うが、見本を示す時ははっきり見せるようにするのが課題である。

小学校や中学校の先生より、むし歯についても話してほしい等の意見もあるが、本学としては歯肉炎について支援をしているので、むし歯については各学校で行われている2回目の指導等をお願いしたいと思っている。とのご意見をいただいている。

【宮川会長】

今年度、口腔保健支援センターが、児童クラブで、歯と口の健康講座を実施し、かむことやあいうべ体操の普及活動を実施したと報告があったが、実際行ってみてどうだったか、健康増進課からお願いしたい。

【健康増進課】

当初 20 回くらい実施できればと思い募集をしましたら、7 割を超える児童クラブからの申し込みがあり、5 名の歯科衛生士で児童クラブを回った。自分も 20 回ほど講座を実施し、よくかむことについて、口呼吸についての説明をしたが、やり取りの中で感じたことは、あまり噛んでいないと答える子が多かったことと、飲み物で流し込んで食べていると答える子も予想以上に多かった。また、口が開き、前歯が見えている子も多く、口呼吸になっていると答える子も結構いた。実際に食べている場面は見えていないので詳細はわからないが、食べ方に課題がある児童は多いのではないかと思った。

児童クラブでの講座は、子どもたちに直接働きかけることができ、児童クラブの先生方にも実情を知ってもらい、日ごろの声掛けや、あいうべ体操の取組を促すいい機会となった。ただ、小学生から取り組めばいいというものでなく、乳児期からはもちろんだが、保育園、幼稚園でも何か取組ができればいいのではないかと感じた。

【宮川会長】

健康増進課から児童クラブへの啓発に取組んでみて感じることにについて報告いただき、必要性として乳児期から、また保育園、幼稚園から取組が必要ではないかという感想だった。自分たちも小学校等でお口が閉じられていない子どもが多いと感じている。保育現場ではどうか森本委員の方から教えてほしい。

【森本委員】

かむことについては、かみかみデーと称して固いおやつを提供している園や、肥満防止のためにも食事の場面で何回噛んでから飲み込もうなど口頭で指導されている園もあるが、あいうべ体操については、歯みがき教室の中で取り組んだところや、実際取組を始めた園は 2~3 園あったが、保育園全体としてまだまだ少ない状況だった。

お口の機能や発音、嚥下にもつながるので、保育園で歯、口の健康づくりを進めていく必要性を感じている。

【宮川会長】

公立の保育園では、あいうべ体操に関する認識や取組はどうか。

【保育幼稚園課】

研修などで取組を紹介等はしているのですが、保育士等も必要性は認識していると思う。

公立の園ではほとんどの園で看護師を配置している。昨年度、歯科衛生士会の歯科衛生士に教えに来てもらった指導を参考に、今年度は一つの保育園の看護師が、歯磨き指導やあいうべ体操に取り組んでいる。

来年度、研修会等に外部講師を招いて勉強等もしていければと考えているのでご協力をお願いしたい。

【宮川会長】

学校現場において、食べること、かむことについて感じることはあるか。

【吉井委員】

歯肉炎予防に関して、直接的、間接的にいろいろあるが、学校現場の食べることの課題として、食育に関しては、1学期に児童自身に答えてもらうアンケートを実施している。

項目の中の1つに、かむことへの意識について聞いている質問があるが、よくかんでいると答えた児童は42%、時々よくかんでいるは44%、あまりかんでいないは14%という結果であった。アンケートの自由記載では、かむ力が弱いと感じている、前歯でかめず奥歯でかんでいる、なかなか飲み込めない等の児童もいた。

また、給食では、開始から5分くらいで食べ終わる早食いの児童もいるため、よくかんでいるかどうか心配である。

また、かたいものをかむことに慣れていない子も多いと思う。昔は、じゃこ等かたいものを食べていて咀嚼力が強くなっていったと思うが、今の子どもはハンバーグなどやわらかいものが多かったり、魚にしても骨が全部とられていたりする。

保護者にも食べさせるものに意識をしてもらい、給食だけでなく、しっかりかむことができるよう家庭と協力することが必要だと思っている。

【宮川会長】

植田委員、歯科衛生士会で学校等に行かれることもあると思うが、感じられることはないか。

【植田委員】

イベント等でお子様連れの保護者の方と接する機会が多いがイベント等では健康意識が高い保護者が多いと思う。

歯科医院等に、あまり定期的な受診をしていなく、痛みがあつてから来られた方たちには、その機会に普及啓発できるよう、診療所の歯科衛生士にも働きかけていく必要があると思っている。

【宮川会長】

続いて、歯周病予防についての取組についてご意見をいただき。市民の方が、歯周病が全身に及ぼす影響について知り、自ら歯周病予防に取り組んでもらうために、定期的な歯科受診等につながるための普及啓発を地道に行っている状況である。

今年度の事業で、40歳、50歳対象の成人歯周病検診が始まっているが、年齢が限定されていることもあり、申し込みが目標数の1割ほどだと聞いている。周知についても各団体のみなさまにお願いしたい。

医歯薬連携推進事業のアンケート結果では、医師会の先生方の8割弱は、通院されている患者さんへの歯科受診をすすめたことがあるとの結果でありがたいことだが、特定健診受診者の方を歯科受診につなげている割合はまだまだ少ないという結果だった。特定健診の問診項目に、食べる速度や、歯の状態についての項目が追加されたが、アンケートの結果では、歯科の項目があることを知っている先生方は6割以上になっていた。その項目から歯科受診を勧めただけとありがたいが、活用のしやすさとしてはどうか。高崎委員、ご意見お願いしたい。

【高崎委員】

特定健診については、現在向いている方向は、生活習慣病に特化した健診だと認識している。県が作成した特定健診のPR番組でも、歯周病との関連については触れられていなかった。医師会の方でも、まだ特定健診問診票の歯科の項目から歯科受診につなげるところまでいっていないのが現状である。

今後特定健診から積極的な歯科受診につなげるための取組として必要だと思うことは、特定健診の短い時間の中では、なかなか歯周病と全身疾患の関連まで説明する時間もないため、わかりやすいリーフレット等健診を実施している医療機関に配布すれば歯科受診率も上げられるのではないかと思う。

【宮川会長】

リーフレットについては、医歯薬連携推進事業の中で作成したパンフレットがあり作成した当初は配布をしていた。あまりたくさんの部数は配布していなかったので、改めて配布をしていく。

また早食いに対しての指導については医療機関ではどうか？

【高崎委員】

そういう問診の項目があるのは知っているが、早食いについての知識がなかったので、説明ができる資料等あればありがたい。

【宮川会長】

繰り返し、周知していくことが必要だと思うので、事務局のほうも配布の手配をお願いしたい。

特定健診の問診で歯科の項目の活用状況や、成人歯周病検診の周知について上原委員ご意見をお願いしたい。

【上原委員】

特定健診の問診項目で咀嚼の状態のところは、私たちが対象にしている対象が 60 歳までということもあり、問題になる方が少ないためあまり活用できていない。

食べる速度については、肥満の方は食べる速度が速い方が多いため、そことつなげて特定保健指導の中では話をするようにしている。

協会けんぽでは事業所カルテを作成していて、その事業所の健診を受けた方の結果を生活習慣と健診結果で見せることができるため、食べる速さをデータチャートにして見せながら、説明を行っている。

成人の歯周病検診の案内は、事業所訪問している保健師や、健康宣言をしている事業所に事務職が訪問するため、その時に配布して周知している。自分たちの個別の健指導でも対象の方には配布している。特に、糖尿病の数値が高い方には歯科受診をすすめている。

【宮川会長】

受診者の立場として、前田委員にお聞きしたい。PTA 联合会の中で歯周病の話には、なかなかならないとは思いますが、歯周病予防について課題だと思うことについてご意見をお願いしたい。

【前田委員】

今日歯周病検診のちらしを見せてもらって、保護者の中に 40 歳、50 歳の方がいると思うので、常任委員会等で周知すれば関心も深まるのではないかと思う。

あいうべ体操についてはどんなものかわかっていないが、教えてもらえれば広がっていくと思う。

【宮川会長】

あいうべ体操のちらしがあったら事務局からみなに配布してほしい。

歯科医師として田岡委員どうか。今取り組んでいる医歯薬連携についてなどご意見をお願いしたい。

【田岡委員】

5年間、医歯薬連携に取り組んできて、主に歯周病と糖尿病の関わりについて啓発してきた。事務局からの報告でもあったが医歯薬関係者のアンケート結果では、糖尿病と歯周病の関連について知っていると答えた方は93%となっており、かなり認知されてきたと思う。

先日の研修会は循環器の先生だったが、今後は、糖尿病だけでなく、循環器や肺疾患、妊娠への影響等、他の病気についても認知度を上げていくことも必要ではないかと感じている。また、今後市民向けの普及啓発も必要ではないかと考えている。

【宮川会長】

植田委員、歯科衛生士会として取り組んでいること、今後必要だと思うことなどに
ついてご意見をお願いしたい。

【植田委員】

ここ数年、高知市いきいき健康チャレンジのスタートイベントや高知市歯科医師会主催の歯っぴいスマイルフェアでは、歯科衛生士会は、口臭チェックや口腔水分計を使って口腔乾燥のチェックをしている。アドバイスをする中で、日ごろ気になっていることが知ることができてよかったなどの声が聞かれる。このような市民向けの啓発活動は今年度も続けていきたいと感じている。

【宮川会長】

学園短大の大野委員から歯周病についてご意見をいただいているということなので事務局から報告をお願いしたい。

【健康増進課】

大野委員より、生活習慣病と歯周病の啓発等で学園短大としてできることとして、中学校で歯肉炎からの移行として取り上げることは可能である。また企業および施設等の実習として生活習慣病としての啓発をしているので、今後も啓発していく予定であるとご意見いただいている。

【宮川会長】

その他ご意見があればお願いしたい。

【森本委員】

食べることや口の機能について園で日ごろ感じていることについてこの場を借りてお聞きしたい。

まず、3歳児健診で、あごの発達が未熟だと言われた子と、日中口が臭い子への園での対応についてを知りたい。また、食べ物が口の中で細かくなってもいつまでも飲み込むことができない子がいるが、他の園からも課題として挙がっていたが、かみかみができず咀嚼力が弱い子が多く、離乳を勧めたいが、咀嚼ができないため段階を戻さないといけない子や、母乳ばかり飲んでいるため、離乳食が全然進んでいない子もいる。

離乳から咀嚼の大切さを日ごろから感じており、もっと勉強もしていきたいし、組織的に歯と口の健康づくりに取り組むことの必要性を感じている。

【宮川会長】

あごの発達、口臭については、3歳児健診に携わっている上田先生にご説明お願いしたい。

【健康増進課】

森本委員が言ってくださったことは、私たち担当も同じことを課題と感じている。

ご質問内容のあごの発達や咀嚼の問題は、離乳食が口の機能に応じてすすめられておらず、口の機能が段階によって発達できていないことが影響している。月齢ではなく、機能によって進められていないと、機能を獲得できていないのに、硬いものを与えることで、咀嚼ができず丸飲みしてしまうことにもつながってしまう。

離乳食初期の段階の口唇を閉じるという動きの獲得がまず重要で、園でも気を付けていただきたいのが、スプーンで与えるときに、上あごになすりつけずに、しっかり口唇を閉じて取り込む動きを促すような食べさせ方をすることが大切である。

また前歯を使ってかじりをとることの経験ができていない子どもが多く、前歯を使えない子もいる。手づかみ食べをしっかりさせて前歯でかじりにとって食べさせることが必要である。

あと、コップで飲むことも口の機能の発達のためには重要で、哺乳瓶からスパウトになってしまうと、液体が口唇に触れることなく取り込まれてしまう。口唇ですするという動きが麺類をすする動きにもつながっていく。コップを使うことで口の機能が育っていく。

口臭についても、清掃不良だけではなく、口が閉じられないことで口呼吸を促し、その結果口が乾燥してしまい口が臭くなることにも影響するため、きちんと口唇を閉じるという動きの獲得が関係してくる。また体幹が弱いことも口唇がゆるんでしまうので、そういった影響も考えられる。

健康増進課としても口の機能の発達のための取組が必要だと考えているため、職員向け研修会等も行っていきたい。

【宮川会長】

高知市歯科医師会でも学校保健部の研修会で、食べること、かむことの研修等をここ何年か行っているため、園からの参加もぜひお願いしたい。

本日の会で、たくさんの意見が出てきたが、各委員さんをお願いすることもあると思うので、ご協力お願いしたい。また歯科医師会から説明にいったらいい内容等あったら対応していきたいと思っている。

閉 会

事務局より連絡事項

- ・あいうべ体操資料の説明
- ・第2回目の検討会は2月に実施予定